



いちいの会 だより

平成28年
41号

発行/社会福祉法人 いちいの会 <http://homepage3.nifty.com/kusunoki/>

ICHINOKAI VOL. 41



平成28年4月6日 無量寿院にて

社会福祉法人 いちいの会 理事長 児嶋 政明

みなさま、こんにちは。

4月1日から始まる新年度、すなわち平成28年度は、くすのき苑にとっていろいろな意味で変わり目の年になると思われますが、まず、昨年度のことを振り返ってみましょう。

昨年11月のくすのき祭はお天気にも恵まれ、地域のみなさまや関係者のみなさまが大勢お出でになって大変にぎわいでした。みなさまありがとうございました。また、長年の懸案であったくすのき苑の屋上の改修工事が去る2月に完工しました。

新年度はどんな年になるでしょうか。

社会福祉法人を取り巻く環境は変わろうとしています。社会福祉法の改正案が3月に国会で承認可決され、4月から段階的に施行されることになりました。この改正によって、社会福祉法人に関するガバナンスの強化や透明性の確保など、種々の新しい施策が実施されます。

経済的には、収入面では伸び悩みの状況にある一方、

支出面ではインフレによるコストアップ要因が採算を圧迫しつつあります。当法人においても、一段と身を引き締めて事業の運営にあたることとしています。

前向きの話としては、早々にくすのき苑の屋内の改修工事に取りかかります。そして、くすのき苑の中庭2か所の増築工事とワークショップ3号館新設のための改修工事に取り掛かる予定です。それぞれどんなことになるのか、今から楽しみです。

また、給与制度を含む諸規程の改正に加えて、改正社会福祉法に対応するため、ガバナンス体制や開示のあり方などについての見直し等を順次進めて、法人の体質の強化を図っていく所存です。

本年度も役職員一同力を合わせて、設立理念の「利用者第一の充実した支援サービス」と「地域の期待への対応」において着実な努力を重ねていく所存ですので、みなさまには引き続きのご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。

- 目次●
- ◇理事長より 1
- ◇法人全体会
観桜会 2
- ◇事業所報告 3.4
- ◇行事と旅行 5
- ◇新任職員紹介
行事予定・販売会予定
編集後記 6



平成28年度の始まりにあたり、4月1日に法人の全体会を開催した。16年前に一つの入所施設から始まったいちいの会も、生活介護事業所(定員30名)、グループホーム5か所(定員24名)、相談支援事業所、県からの受託の中核地域生活支援センター、グループホーム等支援ワーカー事業と少しずつではあるが大きくなっている。今回の全体会では正職員、準職員併せて90名弱のうち、70名程の参加となった。

理事長より法人理念に関して、今年度の新たな事業に関して、社会福祉法人改革についてお話を頂き、家族会会長の鈴木良造様より、野田市の肢体不自由児者の現況と法人への協力体制、会長続投のご報告を頂いた。私からは、新任、異動、昇役職員の紹介を行い、今年度の法人の事業計画、就業規則、給与規程等の変更に関して説明を行った。その後各事業所の現況報告と今年度の展望が担当から話があった。

私達の仕事は一人ではできない仕事である。一人の利用者の方を支え、寄り添うには何人もの職員でチームを組み、またそれぞれのチームで連携をし、またそれぞれの事業所が法人の中で連携をする、そのためにはそれぞれの事業所間の情報の共有は大切になる。半期に1度の全体会ではあるが、法人職員として法律、規程を頭に置き、事業所間の情報共有を行い自分がどこで、どのように仕事をしているのかを再確認し、新たな気持ちで仕事に向き合える会となった。



観桜会

生活支援員 張ヶ谷カツ



4月4日千葉カントリークラブ梅郷コースにて、保護者会の皆様・利用者さんと一緒に観桜会に参加させて頂きました。前日からの雨が当日まで続いていましたが、会場へ行くと保護者会の皆様の和気藹々とした雰囲気、私たちの心もお事が出来ました。お昼のお弁当も保護者会の皆様の御配慮で、色鮮やかで美味しい食事を摂ることが出来、日頃の保護者会の皆様の御協力ときめ細かな心使いに、改めて感謝の気持ちがこみ上げてきました。

先程まで雨だった天候も、昼食を食べ終わるのを待ち構えていたかのように、お天道さんが顔を出し、参加した皆様に歓迎しているような陽気になりました。先程までくすんで見えていた桜の花も、まぶしい光と新緑と綺麗に整地されている芝生が会い重なり、満開の桜の花が一段と美しく輝いて見えました。

草原の様な広い敷地でのんびり散歩をした後、芝生の上でパターゴルフも体験させて頂きました。利用者さんはボールを見つめ、遠くへ飛ばそうと真剣な表情でパターを振りますが『思った所へボールが飛ばない』と悔しそうな表情や『空振りしてしまった』と照れ笑いするなど、普段見る事のできない素敵な表情を見せてくれました。

会を終えて苑に戻る際、保護者会の皆様に、見送りをして頂きました。その時、私達がお預かりしている利用者さんは、素敵なお両親・ご家族の皆様に、大切に育てられてきたのだと垣間見る事が出来ました。と同時に、私達はご家族の想いをしっかり受け止め、真剣に向き合い支援しなくては行けないと、改めて感じることが出来ました。

最後になりますが、千葉カントリークラブ梅郷コースの皆様、ならびに観桜会の関係者の皆様、お招きしていただきありがとうございます。私たちにとって貴重な一日となった事に感謝申し上げます。



くすのき苑

副施設長 大谷 篤司

3名の新しい職員がいちいの会に入職し、くすのき苑に配属となりました。職員も新しい部署への異動等があり、期待と不安と困惑と様々な思いが混同しながら、この春を迎えています。

今年も桜前線が発表され、全国津々浦々の桜が満開になり、多くの人々の目を楽しませてくれました。桜の品種の代表的なソメイヨシノは、一本の木から接ぎ木をして全国的に広まっていったそうです。つまり全国に広がっているソメイヨシノは遺伝子が同じなので条件が整えば一斉に咲き、一斉に散っていくとのこと。

私達もアイデンティティーをもって支援にあたる必要性があります。くすのき苑の職員として、どのような資質を求めるとか、障害をどのように理解していくのか。それらを支援の現場に近い言葉で表現するために、昨年度「くすのき苑支援目標5か条」を定めました。しかし、この5か条を実際どのように運用していくかがさらに重要になってきます。

価値観を共有していくこと、利用者の方と真摯に向き合うことで、一斉に咲いた桜の壮観な眺めのように、私達も利用者の心の中にたくさんの花を咲かせることができるような職員集団を目指していきたいと思いません。

中核地域生活支援センター のだネット

所長 金城 和子

桜が満開の4月1日、のだネットに四代目のグループホーム等支援ワーカーが法人内の異動でフレッシュに着任しました。平成16年10月に千葉県から「24時間365日対応、障害の有無を問わない相談事業」中核地域生活支援センターを受託し、平成19年4月より千葉県の障害者グループホーム等支援事業事業者指定を受けました。平成元年に全国でグループホームが制度化されていました。事業者指定以来9年間で野田市内のグループホームは6法人の14カ所、3つの会社の6カ所、計20ホームに増えました。

ワーカーは年間を通してグループホームに関わる様々な活動を企画・運営しています。連絡協議会の開催で事業者間の連携を深め、世話人講座では世話人さんの「精神障がい理解」の為に保健所・「知的障がいの理解と対応」では福祉関係者・「障害者差別解消法と千葉県条例について」では法テラスの弁護士さんに講師をお願いしました。また入居者が実行委員となり「ほっぺティングの集い」を開催、カラオケ・新年会(食事・ゲーム)を入居者と世話人さんが楽しみました。その他、これから入居をしたい人・入居をさせたい親御さんの為のグループホーム見学ツアーは特に人気がありました。のだネットのバックアップはもとより、各ホームのサービス管理責任者・世話人さんの多大なご協力で事業が運営できておりますことに感謝申し上げます。不安で一杯な新人ワーカーの「この仕事は楽しいですか？」の一言に「楽しいから11年以上もさせてもらっている。これ以上のやりがいのある仕事はない。」と答えると「楽しいと思えるように頑張ります。」と力強い返事。これから「ワーカーとして事業を担う意味を自ら見つけてほしい。福祉に従事する喜びを自ら掴んでほしい。」と願っている。

相談支援センター いちいの木

センター長 菊田 賢一

4月に入り車を走らせていると、鮮やかな桜の花のピンクや土手一面に咲いた菜の花の黄色が目を楽しませてくれます。自然の素晴らしさを感じながら、新たなスタートを迎えるにあたってすがすがしい気持ちになりました。

私が中学生の時、担任の先生が「大人になっても『春・夏・秋・冬』にどんな草花が咲いて、この季節には何があるなど、季節感を忘れないで育ててください」と話していたことを思い出します。私も色々な事業所を訪問しますが、それぞれに工夫し、季節感のある行事や飾りなどに楽しみを見つけているのを感じます。いつも、そんな自然を大切にすることを心を持った職員であって欲しいと願っています。

相談支援センターいちいの木では、今まで行ってきた特定・一般・障害児相談・サービス等利用計画書の作成の他に、新年度から保育所等訪問支援事業が始まります。保育所等訪問支援とは、手厚い支援が必要な児童に対し、児童の発達支援に関わる職員が児童の集団生活の場に月1,2回程訪問して、個別の支援を行うサービスです。今までも千葉県障害児等療育支援事業という形で保育所・幼稚園・学校等を回って療育相談を受けてきましたが、今後はさらに障害児の支援に深く関わっていけるものと考えています。

今後も幅広く相談事業を展開し、地域福祉のすそ野を広げ、また職員の資質の向上に努めていきたいと思いません。

ワークショップくすのき

副施設長 戸辺 泰介

日頃より弊事業所の運営にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。年度も替わりまして、今期も新しい利用者の方を2名、お迎えすることになりました。

一人は地元野田の学校を出られた方、もう一人は隣の茨城県からいらっしゃいます。他県といっても、車で15分ほどの距離。埼玉県から通われている方もすでにいらっしゃいますので、珍しいことではないのですが、地域を越えて利用のご希望をいただけるのは本当にありがたいことです。

また、今年度はこれまで2ヶ所だった活動場所が、3カ所に増える予定です。近年は利用人数に対してやや窮屈な環境でしたので、これですぐやく解消されそうです。併せて、これまで出来なかったような活動も、空間が増えたことで導入できるのでは、と考えています。

ちょっとした変化ではありますが、利用者の皆さんには普段と変わることなく、のびのびと力を発揮していただけるよう、職員側も平常心を意識して支援にあたっていきたいです。

至らないことも多いかとは思いますが、引き続き皆様のご指導、よろしく願いいたします。

グループホームかえで

支援係長 佐々木 健志

木々もすっかり芽吹き、新緑の葉が茂る季節になりました。

この4月よりワークショップくすのきと兼務ですが2名の女性職員が配置され、管理者を含め4名体制で運営していくことになりました。今年度から世話人さんも3名増え、総勢26名の職員で力を合わせ入居者さん達の支援をしていきます。

私自身もグループホーム担当になり4年目を迎え、世話人さんもいろいろなホームを経験したり研修にも参加しスキルアップしていく姿が目に見えてうれしく思います。利用者の支援も医療面、介助面など多岐に渡るため、より良い生活が出来るよう頑張って支援をしていきたいと思ひます。

昨年度から行事や外食、外出もたくさん実施でき余暇活動の充実が図れてきました。これからも多くの笑顔が見れるグループホームにしていきたいと思ひますので今後ともよろしく願いいたします。

職員日記

主任作業指導員 秋山 直樹

勤務が終わって家路に就く頃、大抵の場合、外はもう暗くなっています。ふと、空を見上げると、小さいながらも力強く煌々星々の光が目に入ります。宇宙に思いを馳せる瞬間です。およそ人の理解の範疇を超える永い旅をして地球に届く星の光。僕らが目にするその光は、僕らが目にしてきた事象なんて映らないくらい、沢山の事象を映して来たことでしょう。そしてその星々の軌跡をなぞって、様々な想いを重ねて星座を辿ります。悩む事を忘れる瞬間です。

家、仕事、趣味、人間関係、良い悩みも悪い悩みもみんなまとめてその瞬間だけ忘れて、そして思い出した時はどこかすっきりとし、暗がりの中で一人笑みを浮かべています。好きな星はおおいぬ座の一等星、シリウス。思い返せば、きっかけは姉が読んでいた漫画「星の瞳のシルエット」。そこから星に興味を持ち始め、男の子だった僕は「聖闘士星矢」も大好きになり、高校では天文気象部に入部。合宿で行った乗鞍岳の星空は、星があり過ぎて星座を辿れないほどの圧倒的な星の量と、その星々が織り成す壮大な美しさ、人生で最大の感動を与えてくれました。でも、目に見えないだけでここにもそれだけの星の光が届いています。それを可能性とするならば、様々な要因で隠れてしまい目には見えない小さな、でも力強い可能性、それを信じて、感じて、見つけられるような人間になりたい。

詰まる所、夜景とかイルミネーションとかが好きじゃないという話です。



12月20日 クリスマス会

クリスマス会ではサンタさんとトナカイさんが、たくさんのプレゼントを持って来てくれました。クリスマスといえばケーキですが、今年は真っ赤なイチゴのショートケーキで、利用者の方は頬にたっぷりほおばりながら美味しそうに食べていました。たくさんの笑顔が見られたクリスマス会でした。 額賀 敦子



1月20日 新年会

くすのき苑の新年会ではグループに分かれて、書初めやカラオケ・おめかし、櫻木神社に初詣に行ってきました。普段着ない服を着てみたり、お化粧をしたり、女性陣はいつも以上にニコニコとしていて職員もほっこりしました。初詣では今年1年、健康で美味しいものが食べれますようにとお願いしてきました。 小島 優子



2月5日 節分

まめを何故まくのか？季節の変わり目には鬼が出ると言われていて、節分に豆をまいて鬼を追い払う行事が室町時代より続いているそうです。くすのき苑でも節分の日には豆をまき、悪い鬼をくすのき苑より追い出し、福を招くようにしています。鬼に扮した職員を利用者さんが楽しそうに豆をまき、鬼を追い出しています。 中村 成彦



2月15-16日 木更津方面1泊旅行

2月に木更津方面へ、女性利用者4名と旅行に行きました。高齢の方々との旅行だったため、温泉を満喫しゆっくりと過ごせる計画を立てました。流れる温泉や黄金風呂等があり、普段くすのき苑では入ることの出来ないお風呂を楽しみました。また、入浴後はお土産屋を見たりゲームをしたりと楽しみました。 齋藤 貴子



3月28日 チョコフォンデュ

バレンタインデーに合わせて「チョコレートフォンデュ・パーティー」を開催しました。チョコタワーまで用意することはできませんでしたが、イチゴ・バナナ・マシュマロとそれぞれ好きな物を選び自分でチョコをくぐらせ食べていただきました。手や口元をチョコで汚しながらの笑顔。楽しい会になりました。 栄養士 吉田 鈴子



3月31日 ありがとうの会

3月31日にありがとうの会を行いました。退職者の写真を使った映像で思い出を振り返ったり、利用者が思いを込めて歌を歌ったりと楽しみました。職員が退職することを悲しみ、涙を流す利用者の方や、思い出にと職員と写真を撮るなど、思い思いに職員との別れを惜しみました。 片倉 美幸



新任職員紹介



たしま こうき
田嶋 剛宜

4月1日よりくすのき苑で新任職員としてお世話になります田嶋剛宜と申します。利用者の方により良い生活を送ってもらえるよう、学びを忘れずに、優しさを持って支援していきます。よろしくお願ひ致します。



もり こうじ
森 康滋

4月からお世話になっております、森康滋です。沢山いらっしゃる利用者さんや職員さんの名前を覚える事で今は大変ですが、日々の変化や発見を大切に、一日一日成長できるように努力します。よろしくお願ひ致します。



わたなべ
渡部 さつき

4月からお世話になります、渡部さつきと申します。先輩方に多くの事を教えていただきながら、利用者の方に安心して過ごして頂けるような支援が出来るよう頑張ります。どうぞ宜しくお願い致します。

レインボー号

くすのき苑に日本財団様よりご寄附頂いた車がやってきました。駐車場に停めてある車を玄関越しに利用者さんが満面の笑顔で見つめています。カラフルなボディカラーにちなんで、早速「レインボー」と命名させて頂きました。これからたくさんの楽しい思い出を一緒に作って行けたらと思います。よろしくレインボー！安全運転を心掛け、大切に乗りていきたいと思ひます。

山田 宗成



今年も無量寿院の桜が見事に咲きました。いつものお散歩コースから、ちょっと足をのびしました。うっとり見とれてしまうほどの桜です。

お散歩



行事予定・販売会予定

4月	法人全体会、花見、1泊旅行、日帰り旅行 4/29(金)～5/5(木) 春季帰省期間	イオンタウン販売会
5月	理事会、1泊旅行、日帰り旅行 家族会日帰り研修、おひさまといっしょに	イオンタウン販売会
6月	1泊旅行、日帰り旅行	施設連絡協議会販売会 イオンタウン販売会
7月	1泊旅行、日帰り旅行 家族会・職員合同研修会議	支援スタッフ部会販売会 イオンタウン販売会
8月	8/11(木)～8/21(日) 夏季帰省期間	イオンタウン販売会

ご寄付に 感謝いたします

今年度も後援会よりご寄付を頂きました。おかげさまで法人事業も円滑に運営されております。今後ともご支援ご鞭撻をよろしくお願ひいたします。



● 編集後記 ●

車を新調し、毎日の通勤もさほど苦にならなくなりました。窓を開けて走る気持ち良さに、春の暖かさを感じています。(伊藤)

くすのき苑に勤め、いつのまにか3回目の春を迎えておりました。新人さんも入り私も先輩となりましたが、気持ちは常に1年目、今年もフレッシュな気持ちで行きたいと思ひます。(中山)

いちいの会だより VOL.41

発行 社会福祉法人 いちいの会 くすのき苑
〒270-0222 千葉県野田市木間ヶ瀬3121
TEL:04-7120-6667 FAX:04-7120-6668

発行人 総合施設長 清本 健二郎

編集 広報委員会 中山・伊藤・中島

発行日 平成28年4月28日

E-mail kusunokien@nifty.com

H P URL:http://homepage3.nifty.com/kusunoki/